

## 平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

### 1. 学校概要

学校名 高崎市立六郷小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

所在地 〒370-0075  
群馬県高崎市筑縄町32-2

E-mail rokugou-sho@ted.city.takasaki.gunma.jp

Website swa.city.takasaki.gunma.jp/rokugou\_sho

児童生徒数 男子 318名 女子 277名 合計 595名  
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

### 3. 活動内容

#### 1 目標

E S Dを通して、人や自然や社会と意欲的にかかわり、自ら考え、学び、気づくことができる児童の育成

#### 2 E S Dで目指す児童像

- 人、自然、社会とのつながりやかかわりを理解し、自ら考えを深める子を育成する。
- 仲間や地域の人と考えを伝え合い、主体的・協働的に学ぶ子を育成する。
- 未来と地球規模の視点をもって気づき、行動できる子を育成する。

#### 3 実践の内容

##### (1) 教科横断的な授業実践・・・「六郷小E S Dカレンダー」の見直しと活用

教科・領域等の学習を、環境教育、多文化理解、人権教育、国際理解（伝統文化）に分け、総合的な学習の時間の計画とのつながりをもたせ活用できるようにした。さらに、総合的な学習の時間をE S Dの視点で見直し、「人・社会・自然」というテーマで改編し、各学年の系統性を持たせることができた。

##### (2) E S Dの視点に立った問題解決的な学習の促進

本校では、E S Dの視点に立った問題解決的な学習を、単元又は単位時間において取り入れることで、「自ら考え、学び、気づく」ことができる授業の創造に取り組んでいる。E S Dの単元で大切なのは、「学びに火をつける」導入を設定することと考える。

##### ①提案授業1「6年社会」『日本の歴史「武士の世の中へ」』

「単元を貫く課題」設定を位置づけ、課題解決に向けて、資料や歴史的事象から考え、学び、気づきを促し、個々の考えを持たせる。さらに、単元を貫く課題に対する個々の考えを、グループや全体で話し合う活動を取り入れることで、より深く考えることができるようにした。具体的には、考えを関連図に表してから文章に表す活動を取り入れ、源頼朝がつくろうとした国づくりのしくみを考え、まとめる学習を行った。



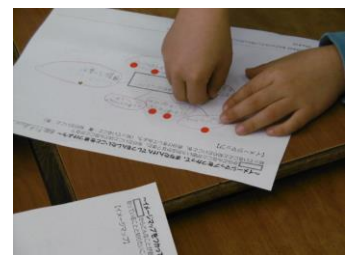
##### ②授業提案2「4年総合的な学習の時間」『大切にしなければならないもの』

環境問題を考えた生活の実践をしたことをまとめ、発表会を通して友達の実践や考えを知ることで、自分の実践を振り返り、考えや意見を深めていった。



##### ③授業提案3「2年生活科」『もっとちいきとなかよくなるろう』

イメージマップに知っていることと知らないことを色分けして書き込み、グループ内で交流してまち探検に行って質問したいことを明確にする活動は、地域についてもっと知りたいという思いをもつことに有効であったか。



### (3) コエ出し、エゴなし、エコ活動

本校は平成22年度にユネスコスクールに加盟し、ESD（持続可能な開発のための教育）に取り組んでいる。今だけでなく未来の地球のことも考え、各学年や委員会の環境活動を通して人や自然、社会との「つながり」「かかわり」を尊重できる児童の育成を目指している。

#### ①各学年の取組

##### <1年生> 「フォレストリースクール」

春と秋の年2回、植物に詳しい方を講師に迎えて地域の六郷公園でフォレストリースクールを行った。落ち葉や花びら、木の枝を集め自然に親しみながらオリジナルの作品を作った。春は、草花を利用したお弁当づくりを実施した。草花の感触やにおい・色彩などを体感しながら、自分の思いや個性を生かしたお弁当を制作した。秋には、公園にある葉を利用した「葉っぱジャンケン」や、講師の先生と同じ木の実などを探す「同じ物を見つけよう」というゲームをし、意識的に自然と関わることができた。



##### <2年生> 「ハナミズキ通りの観察」

学校近くにあるハナミズキ通りには、たくさんの街路樹が植えてあり、四季折々の花や草を見ることができる。ふだんは気付かずに通り過ぎてしまうが、生活科の学習として観察することで、子どもたちは意識して街路樹を見ることができた。また、ミニトマトや校内の菜園でサツマイモを栽培し、食育にもつなげている。



栄養教諭とのTT授業で、「やさいとなかよし」という学習を行った。苦手の野菜もがんばって食べ、食べ物を無駄なく残さず食べることの大切さを学んだ。

##### <3年生> 「草花の栽培・地域学習」

理科の学習では、ひまわり、ハウセンカ、ピーマン、ワタの4種類から自分の育てたい植物を選び、一人1鉢で栽培し観察した。ピーマンやワタはふだん育てたことがないため、子どもたちは興味を持って観察した。また、公園や店などの地域学習をグループごとに行い、学習後は地域にある公園の様子や店の様子を模造紙にまとめて発表した。地域学習で、自然だけでなく地域の人々とのかかわりもさせていただいた。



「昆虫の森へ行って」昆虫の森へ出かけ、カブトムシの幼虫やバッタ、チョウなどの生き物に親しんだ。実際に昆虫を探して捕まえたり、幼虫を触ってみたりした。

##### <4年生> 「身近な環境に目を向けて」

浄水場とゴミ処理場の見学を通して身近な環境に目を向けた。見学後には各自が学習課題を作り、夏休みにエコ活動の実践を行った。家庭の協力のもと、子どもたちは地球温暖化や水質汚染などについて調べ、家庭でグリーンカーテンの栽培、温暖化防止のための打ち水の実施、家庭の電力調べ、エコクッキング、ゴミの分別等を実践した。さらに、一人一人が「環境宣言」を作り、実践していきます。

また、栄養教諭とのTT授業で給食の残飯がどうなるのかを学び、ゴミを減らす意識がさらに高まった。





### < 5年生 > 「尾瀬学習・バケツ稲づくり」

平成22年度から県施策の「尾瀬学校」に参加している。学習の流れは、まず、尾瀬事前学習として、尾瀬ガイドさんに来校していただき、尾瀬の現状や環境問題について保護者と一緒に話を聞いた。保護者と一緒に講演を聞いたことで家庭でも話題に上がり、一層の意識づけができた。次に、尾瀬学校で調べたい課題を一人一人考え、追究し、現地に行く前の課題をより明確にした。尾瀬学校では、尾瀬の自然に実際に触れた。自分が持った課題に対して、ガイドさんにインタビューしたり、草花の写真を撮ったりして解決していった。帰校後は、模造紙等にまとめ、学習参観日に保護者にも発表した。尾瀬学校を中心とした一連の活動を通して、誇れる自然があることや、自分たちにはこれから先も守らなければならない大切な役目があることを学ぶことができた。

また、バケツ稲づくりでは、食べ物を育てて作ることの難しさを実感として感じる事ができた。

### < 6年生 > 「水生生物調査・エコムーブ環境教室」

夏休みに行われる高崎市環境政策課主催の水生生物調査に平成18年度から継続して参加し、烏川の調査を行っている。今年度は高崎経済大学の先生や学生も一緒に参加した。調査では、環境政策課の方から水生生物の種類を教えていただき、カワゲラやヒラタカゲロウ、ヘビトンボなどの水生生物の生育地や数を調べ、川の水質や汚染の状況を確認した。棲んでいる生物により川のきれいさが分かり、石にかくれていた小さな水生生物の分類も行った。

また、県の移動環境学習車「エコムーブ号」の講師の先生から指導を受けた。主に「地球温暖化」と「水の汚れ」について学習し、一人一人が環境問題への意識を高めることができた。

### < 5・6年生 > 「宇宙教室」

JAXAによる宇宙教室では地球環境に目を向け、未来の地球を考えて過ごしていかなければいけないことを学んだ。



## ②委員会活動から発信して全校への取り組みに

### < 環境委員会 > 日常的なエコ活動と栽培活動

日常的な活動として、「環境委員会エコパトロール」のビブスを着用し、休み時間に毎日、節電節水活動のため、校舎内を巡回している。トイレでは「誰かいますか?」と声をかけたり、教室では「外に出て遊びましょう」と呼びかけながら節電に取り組んでいる。

1学期の環境集会では全校で取り組んでほしいエコ活動や環境に配慮した気持ちをもつことの大切さを訴えた。

また、学校園の花壇に四季折々の花を植えている。夏休



みも除草や水くれのために、当番を決め活動を行っている。さらに、みんなが自然への関心をもつようにするため、木のネームプレートを作ったり学校に咲く季節の花を掲示板で紹介したりしている。

平成24年度からは、ヒマワリの種を集めて、福島県の障がい者施設に送っています。種は、花壇にヒマワリを栽培して種を採ったり、代表委員会と合同で、全校児童や地域にひまわりの種の回収を呼びかけたりして集めた。障がい者施設からお礼のお手紙をいただき、子供たちにとって活動の励みになった。

＜奉仕委員会＞「ペットボトルキャップの回収」

全校児童に、「アフリカにポリオワクチンを送ろう」と児童集会で呼びかけたりポスターを掲示したりしている。ペットボトルキャップはいつでも回収できるように、児童玄関に回収箱を用意してある。ポリオワクチンの数は児童玄関に図で表示され意欲づけにもなっている。本校の活動が地域にも広まり、六郷公民館や地域の店舗からもたくさんのペットボトルキャップが集まり、協力していただいている。

＜全校・PTAの取組＞

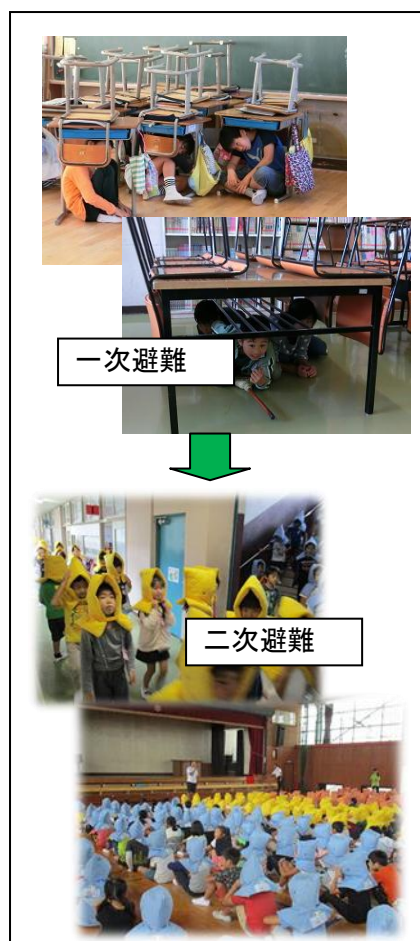
毎日の給食で牛乳を飲み終わった後、各学級で水洗いをして乾かし「テトラパック回収箱」に集めている。給食だけでなく、各家庭で飲み終わった牛乳パックも集めており、学校で使うトイレトーパーへのリサイクルに役立っている。



PTA会長さんから全校の子ども達に向けて、家ではなくなった靴を集める呼びかけがあった。東南アジアの子ども達に寄付をしようという活動である。捨ててしまえばゴミとなるが、物を大切にしてお役に立てようという気持ちをもつことができた。

#### (4) 防災教育

防災教育もESDでは重要な領域と考えている。本校では、主体的に判断し行動する態度を育てるために、緊急地震速報を活用した避難訓練を年5回実施した。この訓練により、自ら自分の身を守る力を身に付けさせることはもちろん、「自助⇒共助」さらには「公助」の精神を育みたいと考えている。緊急地震速報による避難訓練は、授業中はもちろん、休み時間、清掃時など、予告なしで実施する。緊急地震速報のサイン音が流れると、子供たちは「落ちてこない・倒れてこない」場所を瞬時に判断し身を寄せる（一次避難）。次に、放送等の指示により、校庭や体育館、あるいは教室に避難（二次避難）し、子供たちの安全を確認する。回を重ねるごとに、1年生から6年生まで、一次避難がしっかりでき、二次避難も静かに速やかにできるようになってきた。「私はトイレにいました。そこにちょうど6年生4人が来ました。教科書を貸してくれました。私も6年生になったら低学年にそういうことをしたいと思いました。」「一年間の避難訓練を通して、本当に大きな地震が来た時には自分はどうすればいいか、などを考え学び、低学年のお手本になるように頑張りました。また、どうすれば地震が来た時に、学校全員の命が助かるのかを考え、今日は階段で混んでしまったので、上の階の人は内側、下の階の人は外側で歩いて避難できるようにしていきたいです。」など、「共助」の心が育っていることも分かった。



#### 4 成果と課題

- 平成22年にユネスコスクールに加盟して以来、E S Dは環境教育を中核にしながらも、「多文化理解」「人権・命の教育」「国際協力」等へ広がり、E S Dカレンダーとしての位置づけが明確になってきた。今年度はE S Dカレンダーの見直しと総合的な学習の時間の改善を図ることができたので、次年度は実践を重ね、E S Dの目標に迫っていききたい。
- E S Dの視点に立った問題解決的な学習を、各教科等で実践していくことが、E S Dで目指す児童像にせまることを改めて認識できた。また、「アクティブラーニング」を視野に入れた授業づくりにもつながっている。今後も「学びに火をつける」導入を工夫し、単元レベルで主体的・協働的な学びができる授業を研究実践していく。
- 環境委員会や奉仕委員会が中心になり、全校児童にエコ活動を行ったことで、子供たちの環境意識や実践に取り組もうとする意識が高まってきた。今後もE S Dをさらに進めていき、体験活動を取り入れながら一人一人の環境への意識を高め、できることを自ら実践していく児童を育てていきたい。
- 防災教育の中心に、「主体的に判断して行動できる児童像」をテーマとした緊急地震速報を活用した避難訓練を位置づけたことで、E S Dへ関連が明確になった。防災教育の指導計画を見直し、E S Dカレンダーへの位置づけを検討していきたい。
- 先進校の校長先生を講師に招き、E S Dカレンダーや総合の時間を中心にした取組について学んだ。ユネスコスクールとしての実践がより具体的にイメージでき、「学びに火をつける」問題解決的な学習の大切さを実感として認識できるなど、職員の意識が高まった。

#### (2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）